

①確かな学力を育てる（創造）

目標 1

学んだことを活用して考え、説明する力を育てる

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図と式と言葉で端的に説明させる工夫 (わかりやすい例示→発表ボードを使った説明) ・ 学習に向かう姿の明示 (めざす正院っ子) 	
中間自己評価 A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員アンケートから、職員が取組の充実と成果の手ごたえを感じていることがわかる ・ 児童・保護者アンケートでも、「授業のわかりやすさ」について、肯定的な評価である
後期に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年から高学年、中学校までの連続性を意識した指導 ・ 学習用語等を正しく使って説明する 	
最終自己評価 A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童アンケートから、児童は授業がよくわかる、しっかり学習できている、と感じていることがわかる ・ 職員アンケートの結果で、やや低くなったものがあったが、職員自身の要求水準が高くなったためと考えられる
次年度へ向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な力をつける指導を継続しつつ、学んだことを使いこなす力をつける指導に取り組む 	
自己評価に基づく取組や改善策の適切さ ○：適切である △：一部見直しが必要 ×：大幅な見直しが必要	ご意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動では、どのクラスにもALTが授業に関わっているか。昨年度も指摘したが、児童英語に触れる環境づくりが大切である。職員配置を工夫できないか。 ・ 道徳の評価はどうなっているか。授業で上手に発言する子が道徳性の高い子ではない。評価の基準をよく考えて、本当の道徳性を育ててほしい。
○		

目標 2

家庭学習の定着と充実をはかる

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の内容の工夫（授業との関連付け） ・家庭学習の手引き ・家庭学習がんばろう週間（緑丘中との連携） ・学習目標時間の設定 	
<p>中間自己評価</p> <p>A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成率は全学年90%前後で、目標をほぼ達成できた ・算数の自主学習を行う児童、書き方を意識できた児童、読書をしている児童が増えたが、個人差がある
<p>改 善 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートの書き方を例示する ・「学習した図を使う」など、自主学習の視点を与える 	
<p>最終自己評価</p> <p>A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化を図ることができた ・児童の実態に応じた課題や目標をその都度設定し、見直しながら改善を行ったことが、効果的だった ・自主学習ノートの書き方も定着してきた
<p>次年度へ向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「考える力を育てるノートづくりの取組」を継続する 	
<p>自己評価に基づく 取組や改善策の適切さ</p> <p>○： 適切である △： 一部見直しが必要 ×： 大幅な見直しが必要</p>	<p>ご 意 見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に取組を行っている。 ・児童も教員も元気であることが大切である。無理なくずっと続けられるよう、方法を工夫して、次年度も取組を続けてほしい。
<p>○</p>		

②豊かな心の育成（自主）

目標 3

達成感を持たせる活動を通して、自尊感情を高める

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの良いところやがんばりを認める声かけ ・児童理解の会「たんぽぽ」での課題や対応の共有 ・たてわり班活動での異学年交流（助け合い・感謝） ・地域のひと・もの・ことと触れ合う活動（クラブなど） 	
<p>中間自己評価</p> <p>A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、いじめ認知件数は0件 ・アンケートで、「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が100% ・児童の些細な変化について、職員相互で気づきを共有している ・縦割り班活動での異学年交流や、クラブ活動等での地域講師の方との交流が、「認められる場」を広げている
<p>後期に向けた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や学級活動などで、人間関係づくりの授業を行う ・ボランティア活動を通して、役に立つ喜びを経験させる 	
<p>最終自己評価</p> <p>A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、いじめ認知件数は年間を通して0件 ・「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が100% ・縦割り班活動やボランティア活動などが児童にとって「認められる場」となるよう取り組んだことが効果的だった ・保護者や地域の方に「いじめのない学校づくり」の取組が十分に伝わっていない
<p>次年度へ向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が連携して対応する体制づくりに努め、保護者や地域の方との連携を深める ・人間関係づくりや人権について学習する時間をつくる 	
<p>自己評価に基づく取組や改善策の適切さ</p> <p>○：適切である △：一部見直しが必要 ×：大幅な見直しが必要</p>	<p>ご意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達と仲良くしている」「困っているときに進んで助けている」に対して否定的な回答をしている児童が必ずいることが心配である。決まった児童ではないようなので安心したが、気を付けて見守ってほしい。 ・子ども大会などの参加率が高い。集団遊びなど、普段できない遊びを楽しんでいた。 ・低学年の児童も、地域の人へのあいさつができるようになってきた。
<p>○</p>	<p>等</p>	

③健やかな体の育成（健康）

目標 4

「早寝・早起き・朝ごはん」の定着をはかる

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就寝時間の調査と、児童・家庭へのお知らせ ・体力アップの取組（スポチャレいしかわへの参加） 	
<p>中間自己評価</p> <p>A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどのクラスが目標を達成できた ・「家族の生活時間に合わせて児童も就寝時間が遅くなる」というケースへの対応を考える必要がある
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝」の大切さについて、家庭へのお知らせを続ける ・学級指導や全校集会での全体指導を行う ・後期の体力アップの取組（持久走・なわとび）と合わせて指導する 	
<p>最終自己評価</p> <p>A：予定通り・以上の進捗状況 B：一部改善が必要 C：大幅な改善が必要</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、1学期、2学期、3学期と進むにつれて、早寝、早起きのリズムが崩れていく傾向がある ・早寝に関しては、高学年よりも、低学年の方が、目標達成率が低く、小さい頃からの生活リズムの大切さを指導し、習慣化する必要がある
<p>次年度へ向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に「早寝」の大切さに気付くよう、PTA活動との連携を図る ・生活リズムが崩れはじめる2学期に「睡眠」に関する保健指導を取り入れる 	
<p>自己評価に基づく 取組や改善策の適切さ</p> <p>○：適切である △：一部見直しが必要 ×：大幅な見直しが必要</p>	<p>ご意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組期間中は、保護者も子どもと共に目標を立てて早寝を進めている。 ・早寝については、ずっと前から続いている課題である。学校としては、このままお知らせを続けていくしかないのではないか。 ・取組の大切さを家庭にもっと伝わるように広報の方法を工夫してはどうか。
<p style="text-align: center;">○</p>		

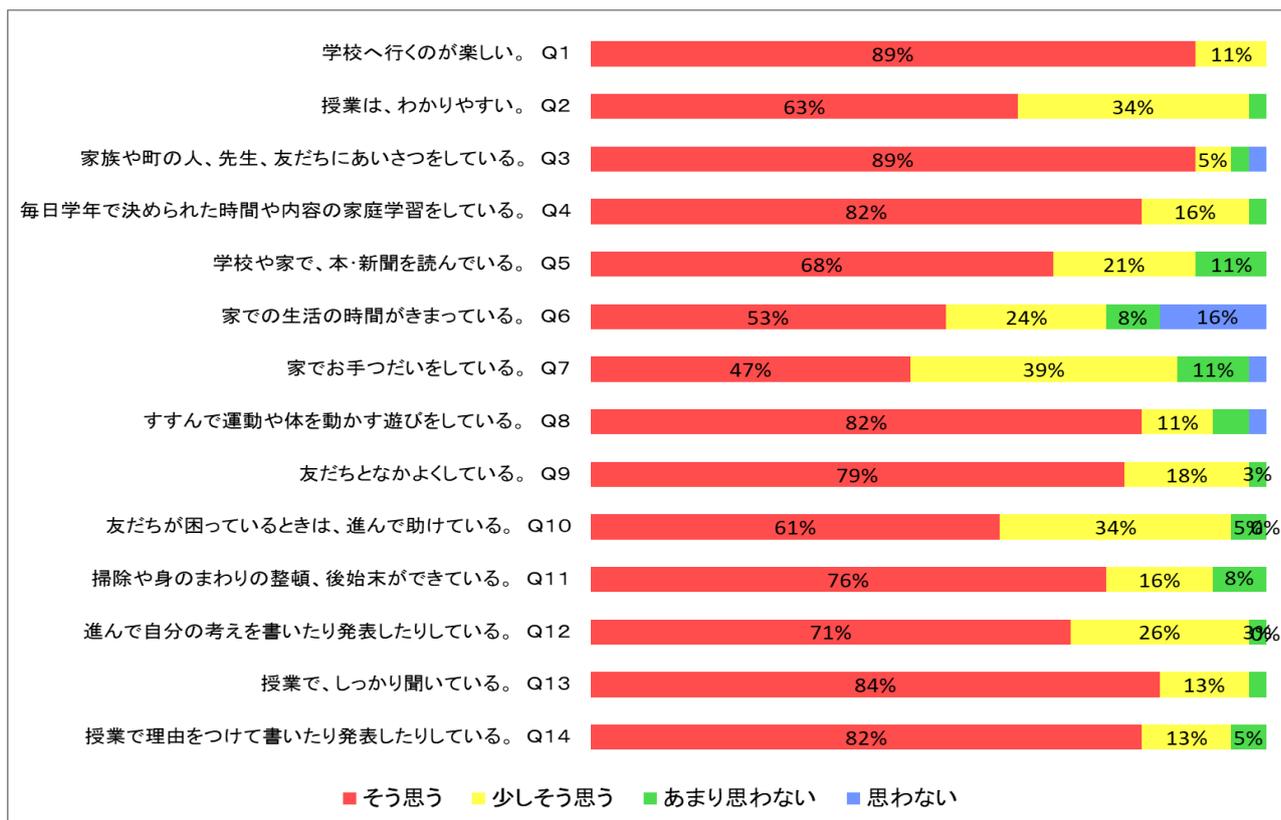
資料1 職員自己評価表

		30年度 中間	30年度 最終	
1	学校経営計画の具体的取組を意識して、実践している。	82.1%	75.0%	-7.1%
2	組織的な学校運営に努めている。	92.9%	89.3%	-3.6%
3	担当業務の努力事項や自身の目標を意識し、達成に努めている。	92.9%	85.7%	-7.2%
4	学校研究の重点事項を十分意識している。	89.3%	82.1%	-7.2%
5	学力向上に向けた組織的な実践の方策が充実していると思う。	100.0%	89.3%	 -10.7%
6	児童は、学校へ来るのを楽しみにしていると思う。	92.9%	90.6%	-2.3%
7	児童は、授業がわかりやすいと感じていると思う。	82.1%	79.2%	-2.9%
8	いじめの未然防止、早期発見に努めている。	87.5%	89.3%	1.8%
9	児童一人ひとりのよいところやがんばりを認め、声掛けをしている。	89.3%	84.4%	-4.9%
10	児童の病気やケガ、突発的なトラブル等に速やかに適切に対応している。	92.9%	90.6%	-2.3%
11	校舎内外や教室等の環境整備・整理整頓に努めている。	85.7%	75.0%	 -10.7%
12	諸帳簿や提出書類等を適切に処理している。	89.3%	87.5%	-1.8%
13	本校は適切に情報を発信、共有し、保護者や地域と連携していると思う。	96.4%	81.3%	 -15.1%
14	勤務時間を適切に管理し、時間外勤務の縮減に努めている。	60.7%	78.1%	 17.4%
15	本校の教職員の体調やメンタル面について心配はないと思う。	67.9%	68.8%	0.9%
16	本校は、保護者や地域等から信頼されていると思う。	82.1%	75.0%	-7.1%

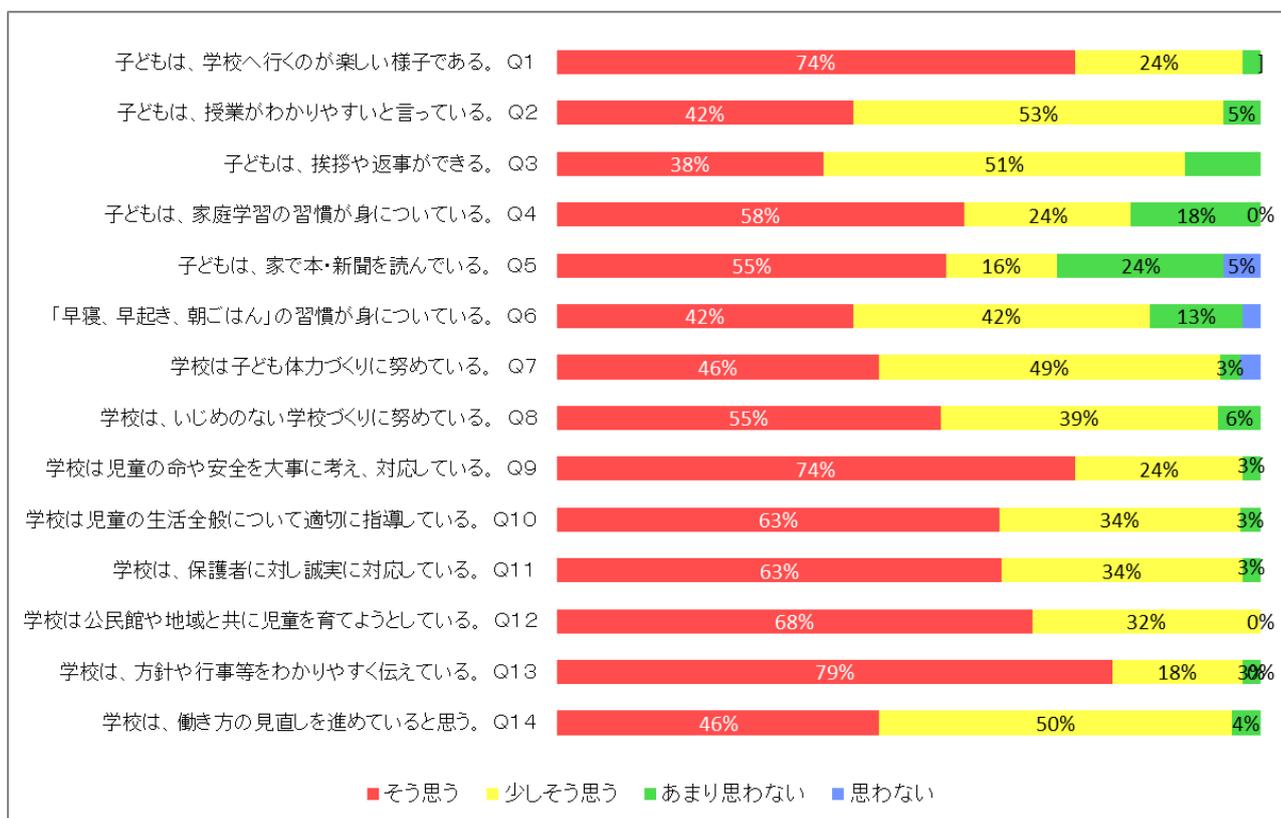
* そう思う4点、少しそう思う3点、あまりそう思わない2点、そう思わない1点として、満点に対する割合を算出

* 中間評価と期末評価を比較し、10%以上の差があったものを色と矢印で表示

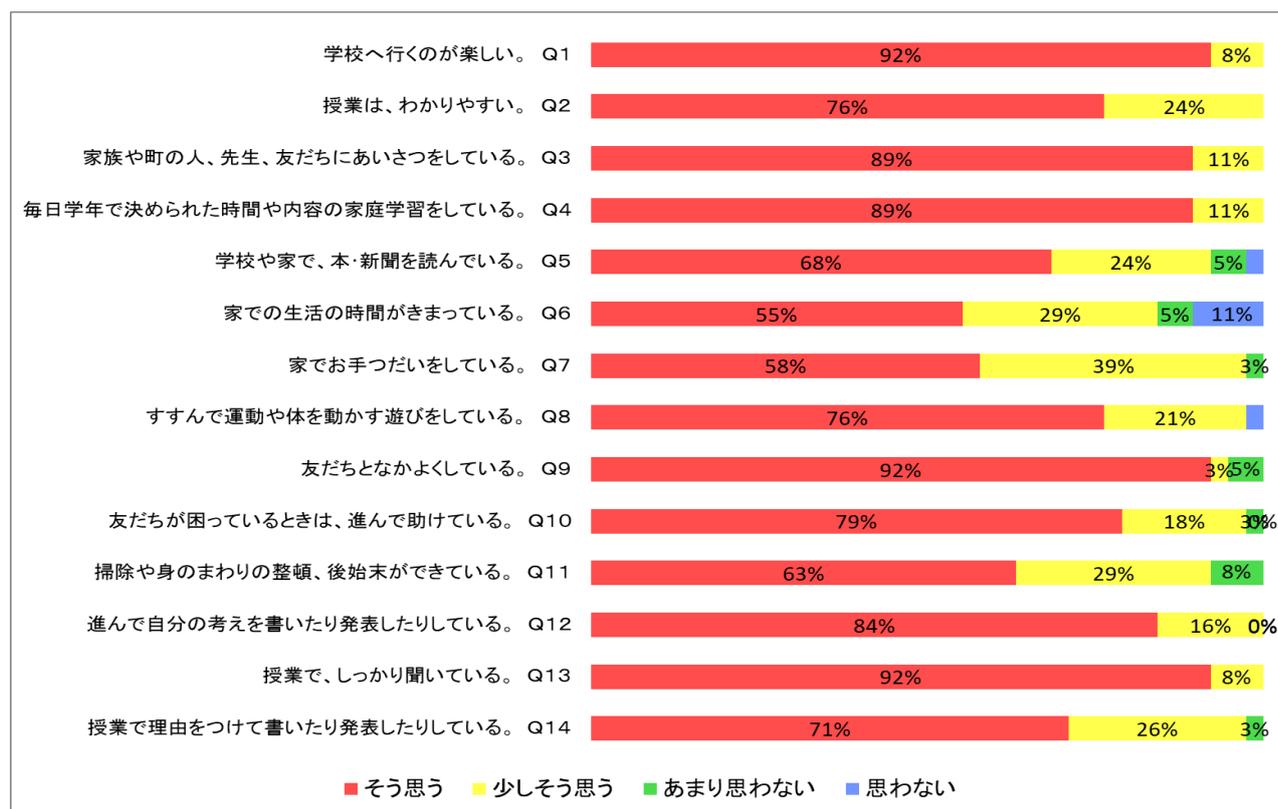
資料2 児童アンケート結果 (30年度 中間)



資料3 保護者アンケート結果 (30年度 中間)



資料4 児童アンケート結果 (30年度 最終)



資料5 保護者アンケート結果 (30年度 最終)

